

個別事業評価			
事業No,	36	施策の柱への位置づけ	柱⑥ 体力づくり
事業名称	子どもの体力向上支援事業	担当課	スポーツ健康教育課
		当初予算額(千円)	5,175
		補正後予算額(千円)	4,386
		決算額(千円)	3,844

		当初	年度末
①	現状 (課題) とその要因	<b>【現状】</b> ◆ 望ましい運動習慣、生活習慣等が、児童生徒の身に付いていない。 ・平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点(全国順位) 小学校男子 47位 女子 47位 中学校男子 45位 女子 46位 運動習慣、生活習慣とも全国平均値を下回る項目が極めて多い。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の順位及び数値データにより、正確に把握できた。 ◆ 子どもの体力向上支援委員会(分析委員会)による調査結果の分析報告により、正確に把握できた。
		<b>【要因】</b> ◆ 学校の体力向上に向けた取組が十分行われていない。 ◆ 体力向上に向けた課題意識が高くない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を、子どもの体力向上支援委員会(分析委員会)により、詳細に分析することができた。
②	目標 (Outcome)	① 本県の児童生徒の体力低下要因について分析し、課題解決に向けた方向性を検討するとともに、体力向上のための運動プログラムを作成する。 ② 地域と連携した体力向上に向けた効果的な取組方法について、県内3地域を指定して実施し、その成果について県内に周知する。 ※ <目指す方向性> 児童生徒の体力を向上させる。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 児童生徒の体力を向上させるために、まず平成21年度に達成すべき内容を明示した目標設定ができていた。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 体力・運動能力、運動習慣等調査結果を基に、高知県の児童生徒の体力低下要因について分析することができた。また、分析結果から施策の評価や今後の方向性について検証することができた。さらに、体力向上のための「体力アップ75プログラム」を作成し、県内の小・中・高等学校等へ配布することができた。 ◆ 指定された3つの地域ごとに、それぞれの特徴を生かしたプログラムが実践できた。また、その成果を報告書として作成し、県内の小・中・高等学校等へ配布するとともに、市町村の体力関係者を対象とした連絡協議会を実施することができた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析 ◆ 高知県体力・運動能力、生活実態等調査結果分析	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ・体力向上支援委員会・・・4回実施(9・11・1・2月) ・体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析委員会・・・6回実施 ・プログラム作成委員会・・・4回実施 ・地域と連携した支援委員会・・・3回(7・11・2月)(高知市・いの町・室戸市) ・市町村体力関係担当者連絡協議会・・・1回 ◆ 今年度からの事業でもあったため、計画通り実施することが難しかった。次年度は、年間の計画を明確にしたうえで実施する。
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 学校における支援事業 ・体力低下要因について検討する「体力・運動能力、運動習慣等調査結果分析委員会」・・・6回 ・課題解決に向けた方向性を検討する「体力向上支援委員会」・・・4回 ・体力向上に向けた運動プログラムを作成する「プログラム作成委員会」・・・4回 ◆ 地域と連携した支援事業 ・地域と連携した効果的な取組を実践する地域指定(県内3地域:高知市・いの町・室戸市) ・市町村体力関係担当者連絡協議会・・・1回	<b>目標達成度</b> <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>
		<b>総合評価</b> <b>と</b> <b>今後の方向性</b>	体力向上に向けた「こうちの子ども体力アップアクションプラン」の取組に対し、外部委員の評価を受けながら推進を行っていくことが重要となる。 また、予算編成時期を考慮した検討を行うことで、新たな事業を創造することが大切である。平成22年度は、次のような取組が必要と考える。 ◆ 具体的な施策を検討 ◆ 県民運動につながる手立ての検討 ◆ 体力低下要因についてのさらなる詳細な分析

個別事業評価				
事業No.	37	施策の柱への位置づけ	柱⑥ 体力づくり	
事業名称	トップアスリート夢先生派遣事業費		担当課	スポーツ健康教育課
			当初予算額(千円)	7,170
			補正後予算額(千円)	-
		決算額(千円)	6,973	

		当初	年度末
①	現状 (課題) と その要因	<b>【現状】</b> 平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から、高知県の児童生徒は、運動習慣(運動時間・運動頻度等)の定着の度合いが全国と比較して低い状況にある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) ◆ 平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の順位及び数値データにより、正確に把握できた。 ◆ 子どもの体力向上支援委員会(分析委員会)による調査結果の分析報告により、正確に把握できた。
		<b>【要因】</b> ◆ 学校の統廃合により、放課後に遊ぶ時間が少なくなったり、塾や習い事をする児童が多く、遊ぶ時間が少ない。 ◆ 学校における体力向上に向けた取組が低いなど、体力に対する課題意識が高くない。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) ◆ 平成20年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を、子どもの体力向上支援委員会(分析委員会)により、詳細に分析することができた。 ◆ 表面的な要因については把握できているが、その根底にある要因については、明確になっていない。
②	目標 (Outcome)	◆ 子どもたちが、プロスポーツ選手や五輪メダリストなどトップアスリートたちの話を聴いたり、一緒に触れ合うことで、スポーツが持つ真の素晴らしさ、努力することの大切さを学び、運動が必要であるという意識を高めていく。 ※ <目指す方向性> スポーツを通じて、運動習慣の定着につなげ、子どもの健全育成を図る。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 子どもたちの運動習慣の定着のためには、体を動かすことの大切さを知り、意識を高めることが重要である。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) トップアスリートたちによる「夢の教室」を通じて、参加した児童は、一流選手を目の当たりにすることで好奇心を高め、スポーツの素晴らしさや努力することの大切さを学び、何かにチャレンジしようとする気持ちを持つことができた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 実施報告書の内容分析 ◆ 委託先(サッカー協会)からの実績報告書の内容分析 ◆ 実施校における広報誌等(学校だより、学級だより)	
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 「夢の教室」の開催 ◇ 開催回数: 基本的に34市町村ごとに1回開催 ◇ 【小学校対象】 ・ 対象者: 基本的に小学校5年生 ・ 実施内容例 (1) 運動プログラム・・・フェアプレーの精神、チームワークの向上などをねらった活動 (2) トークタイム・・・夢先生による夢の大切さを児童生徒に伝えるトーク ◇ 【中学校対象】 講演会 50分程度	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) ◆ 「夢の教室」開催 小学校 : 33市町村 40クラス実施 中学校 : 4市町村 4校 ◆ 意向調査を基に、日本サッカー協会が講師・日程を調整し、該当校と連絡して実施した。新型インフルエンザ等の突発的なことが起こったりもしたが、臨機応変な対応で計画通り実施することができた。 ◆ 日本サッカー協会では、夢の教室のシステムが確立しているため、予定通りに実施できた。
		<b>総合評価と今後の方向性</b>	<b>目標達成度</b> <b>B</b> 「No」を選択した項目 <b>イ</b> 日本サッカー協会の「ユメセン」を活用した事業であるため、実施までのシステム化が図られているが、講師の決定から実施までの時間が短い場合もあった。 事業自体の学校現場の評価も高く、夢の教室についても、マスコミ等に取り上げられることも多くあったため、体力向上の取組を拡充するための、広報としての位置づけにもなった。 今後は、運動習慣に結び付けるための手立てを具体化することが必要となる。また、事業後の児童の変容については、具体的に把握するためにアンケート等の実施を検討することが必要である。

個別事業評価				
事業No.	38	施策の柱への位置づけ	柱⑥ 体力づくり	
事業名称	健やかな体を育む小学校体育推進事業費		担当課	スポーツ健康教育課
			当初予算額(千円)	668
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	538

		当初	年度末
①	現状 (課題) とその要因	<b>【現状】</b> 小学校の体育授業において、実技指導が不足し、十分な運動量が確保できていない実態がある。その結果、目指すべき技能の習得や体力向上に結び付かない事例がある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 日頃の学校現場との交流を通して、体育授業の現状把握を行うことができた。 ◆ 学校訪問の際に、学校長との情報交換を通して、学校における体育的活動の現状を把握することができた。 ◆ ただし、一部の学校についての状況把握であり、県全体の状況把握に至っていない。
		<b>【要因】</b> 小学校体育の運動領域は専門性が高い教科であるにも関わらず、教員が参考とするべき教科書がない。その結果、実技指導に不安を感じている教員が増加している。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 各種研修会や小・中学校体育連盟、各種委員との話の中で出てきている内容であり、概ね要因を特定している。
②	目標 (Outcome)	◆ 体力向上を一つの目的としている新学習指導要領に沿った体育授業を県内に広めていくために、高知県小学校体育連盟と協力としながら、県内小学校教員の参考となる指導資料を作成し、全教員に配布する。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 目指す方向性、計画を整理し、まず平成21年度に達成すべき目標を具体的に設定していた。 <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) 小学校の体育授業にとって、新しい指導要領の趣旨及び具体的な単元例等の授業づくりの参考となる資料が作成され、全教員に配布することができた。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 各小学校における体育科教育課程の作成状況 ◆ 各学校における研修会の実施状況	
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 体育授業の参考となる指導資料を作成・配布し、研修会等で活用することで、体育授業の充実を図る。 ◇ 「小学校体育指導資料」 ・ 編集委員会 委員11名 ・ 対象—小学校1～6年 ・ 領域—全領域 ・ レイアウト—各単元見開き1P ・ 内容—体力向上を意図した授業展開例等	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 作成委員会・・・3回実施 ◆ 平成22年1月 小学校全管理職・教員に配布
		<b>総合評価 と 今後の方向性</b>	<b>目標達成度</b> <b>B</b> 「No」を選択した項目 <input type="text"/> 指導資料の内容は、基本的に新学習指導要領の内容を基に「だれでもできる」視点で編集されている。 また、具体的な指導計画を多く掲載しているため、授業づくりの参考となる。平成22年度は、配布した資料がより広く活用されることを目的として、次のような取組を行う。 ◆ 資料活用場面を数多く設定(教育課程説明会、実技研修会等) ◆ 校内研修会を実施させる手立てを検討

**個別事業評価**

事業No.	39	施策の柱への位置づけ	柱⑥ 体力づくり	
事業名称	地域スポーツ人材の活用実践支援事業		担当課	スポーツ健康教育課
			当初予算額(千円)	11,542
			補正後予算額(千円)	7,558
			決算額(千円)	7,153

		当初	年度末
①	現状 (課題) とその要因	<b>【現状】</b> ◆ 体育授業における専門的な技術指導が十分でない。 ◆ 授業の中で、実際に演技を見せることが難しくなっている。 ◆ 運動部活動の技術指導に苦慮している学校がある。	<b>ア 正確に把握していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) ◆ 体育授業や運動部活動の実態については、各種研修会や小・中学校体育連盟、各種委員との話の中で出てきている内容であり、概ね実態を反映している。 ◆ 外部指導者派遣の申請のほとんどが、技能指導が困難とする理由が多いことから、指導に対する困難さが特定できる。
		<b>【要因】</b> ◆ 体育の実技に関する研修が不足している。 ◆ 教員の高齢化により、実技指導が不足している。 ◆ 技能の高度化により、指導方法が難しくなっている。 ◆ 専門の種目でない部活動を顧問する教師が増えている。	<b>イ 十分に特定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/> ) アと同様の方法で、概ね特定している。
②	目標 (Outcome)	◆ 児童生徒のスポーツに対する関心を高め、スポーツや運動を積極的に行う子どもを育てるために、体育授業や運動部活動の充実を図ることのできる地域の優れたスポーツ指導者を学校に派遣する。  ※ <目指す方向性> 心身の健全な育成と体力の向上を目指す。	<b>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 派遣という具体的な方法は示されているが、その効果を図ることは難しい。今後は、参考となる実践を中心に、実施方法の推進を行うことが必要となる。  <b>エ 目標は達成されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) 体育・保健体育の授業において、専門性の高い領域に、地域の専門性を兼ね備えた指導者を授業補助者として派遣し、担任とのチーム・ティーチングで授業を行うことで、児童生徒の運動技能の向上を図ることができた。 また、実施後のアンケート調査から、児童生徒の「技能の伸び」「運動に対する意欲の向上」が高い傾向が見られるとともに、学校関係者のアンケートからも次年度以降の実施を求める声が多くあり、事業に対する高い効果がうかがえる。 ただし、予定していた派遣数を大きく下回っており、県内に周知することが大きな課題となっている。
		<b>【検証(比較)方法】</b> ◆ 実施アンケート結果の分析 ・児童生徒対象 ・指導者対象 ・外部指導者対象  ◆ 地域スポーツ人材促進委員会による検討	
③	実施内容 (Input・Output)	◆ 地域スポーツの人材活用の在り方について研究を深める。  ① 地域スポーツ人材活用促進委員会 地域スポーツ人材の効果的な活用方法についての検討  ② 学校への講師派遣 ・体育・保健体育(武道) 派遣回数 2時間×3日×70校=420時間 ・運動部活動 派遣数 70部(1回2時間程度×30日)	<b>オ 計画通り実施されたか</b> (Yes <input type="checkbox"/> No <input checked="" type="checkbox"/> ) ◆ 小・中学校への派遣 240時間  ◆ 中学校運動部への派遣 57部  ◆ 地域スポーツ人材促進委員会 3回実施  ※ 派遣について事業実施数が、体育授業、運動部活動とも予定数を下回った。事業の周知が必要となる。
		総合評価 と 今後の方向性	目標達成度 <b>C</b> 「No」を選択した項目 <b>ウ,エ,オ</b>  外部指導者と連携した授業を行うためには、事前・事後に十分話し合う時間が必要となるが、現在のシステムでは、この時間を確保することができないため、システムの改善が必要となる。 また、外部指導者が県の中心部に集中している傾向があり、外部指導者の発掘が必要となる。 そこで、平成22年度は、次のような取組が必要となる。  ◆ ティーム・ティーチングによる授業のモデルプラン化 ◆ 実践校を指定し、実践方法についての研究を実施 ◆ 指導主事による学校訪問